

シラバス

科目名	政治・経済	履修学年	学年（必修・選択）
教科担任	折原 拓真	単位数	2 単位
教科書名	最新 政治・経済（実教出版）	副教材	政治・経済 資料 2025 （東京法令出版）
教科目標	社会的な見方考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。		
科目目標	社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。		
学習方法	授業の前に教科書を一読し、学習内容を把握すると理解度が高まります。また、授業後使用したノート・プリント等に目を通し、繰り返し復習をすることで、年4回の定期試験と日常の授業に対応することができますのでそのような学習を心がけてください。評価は、定期試験、課題・レポート、小テスト、成果物の諸課題の取り組み内容、ノート・ファイル提出などで総合的に判断します。また、自らの学習を調整しようとすることで、自らの学習能力の向上につながります。		

科目全体の評価の観点及び方法

評価の観点		主な評価方法
① 知識・技能	社会の成り立ちや現代の諸課題の学習を通じて、政治・経済の概念や理論を理解することができたか。また、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論を活用して、諸資料を適切に読み取り、情報を効果的に調べ、まとめることができたか。 （評価の割合 4 割）	定期試験 小テスト
②思考・判断・表現	社会の形成者として、政治・経済分野の概念や理論を活用して、現代社会の諸課題を考察することができたか。また、他者とのかかわりの中で自身の考えを表現し、公正な判断のもと、合意形成や社会参画に向かうことができたか。 （評価の割合 3 割）	授業態度 課題・レポート 成果物
③主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のため現代の諸課題を解決しようとする態度を養うことができたか。また、多面的・多角的な考察を通して日本国民としての自覚を持ち、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、参画しようとする意識を持つことができたか。 （評価の割合 3 割）	授業態度 課題・レポート 成果物

年間学習計画

単 元	現代日本の政治（予定時数 15）
主な学習内容（活動）	1章 現代国家と民主政治 2章 日本国憲法と基本的人権 3章 日本の政治制度と政治参加
評価の観点と評価方法	① ・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序の形成、維持することについて理解している。 ・安全保障と防衛に関わる現実社会の事柄や課題を基に、日本国憲法の平和主義について理解を深めているかについて理解している。 ・政治参加と地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人の意見や利害の対立状況を調整して合意を形成して築かれるものであることについて理解している。
	② ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察し、論拠をもって表現している。
	③ ・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、法や規範の意義及び役割や安全保障と防衛、司法参加の意義、政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や諸課題を主体的に解決しようとしている。

単 元	現代日本の経済（予定時数 25）
主な学習内容（活動）	1章 現代の経済社会 2章 現代の日本経済と福祉の向上
評価の観点と評価方法	① ・市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。
	② ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。
	③ ・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

単 元	現代の国際政治 (予定時数 10)
主な学習内容 (活動)	1 章 国際政治の動向と課題
評価の観点と評価方法	① ・国家主権、領土、日本の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、相互に対等なものとして尊重される主権国家の行動を規律し国際間の秩序をつくり出す国際法の意義と役割について理解している。
	② ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。
	③ ・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、国家主権、領土、日本の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割に関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

単 元	現代の国際政治 (予定時数 10)
主な学習内容 (活動)	1 章 国際経済理論 2 章 国際経済の動向と課題
評価の観点と評価方法	① ・経済のグローバル化と国際社会における貧困や格差の問題などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、世界経済がより緊密に結び付き、経済活動が世界的な規模で自由に行われていること、一国の経済政策や経済活動が他国にも影響を与えるなど、国際社会において相互依存関係が一層深まっていること、国際社会における貧困や格差が解消されていない状況やこれらの解決が地球的な課題であることについて理解している。
	② ・世界経済の仕組みや機能を理解するとともに、その特質を把握し基本的な見方や考え方を身につけるとともに、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。
	③ ・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなどに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。